



# THE 婚活!! ~アムールトラの場合~

## まずはじめに 血統登録とは?

絶滅が心配されている希少な野生動物を守るために、飼育されているこれらの動物を種類ごとに登録し、その血統(家系)を管理しています。人という戸籍のようなものです。 雑種を作らないように、また、遺伝的な偏りが出ないように注意しながら繁殖させ、その数を増やしていこうとするものです。

## 国内血統登録と国際血統登録

血統登録には、国内でまとめているものと、国際的にまとめているものがあります。 アムールトラについては、神戸市王子動物園が国内の血統登録管理(種別調整者)を、また、ドイツのライプチ動物園が国際血統登録を行っています。 アムールトラだけでなく、スマトラトラ、ベンガルトラ、アモイトラ、インドシナトラのそれぞれについても、「繁殖」「所有者や飼育場所の変更」「死亡」などのリストが載っています。



トラの国際血統登録書(左)。ライプチ動物園でまとめている。大森山動物園で生まれたアルルとミルルの血統登録書(右)。右がアルルで左がミルルです。

## トラの結婚までの道のり

**1** それぞれの動物園が、自分のところで飼っているトラの数などをトラの調整者に毎年報告します。(結婚相手が必要な時は、そのお願いもします。)

**2** 繁殖検討委員会を開催し、各動物園からの報告をもとに血統に偏りが出ないようにトラのペア形成等について検討します。(プロフィールなどを見ながら仲介者がいい相手を選びます。)

**3** 繁殖検討委員会の助言等に基づいて、それぞれの動物園が契約を結びます。(結納)

**4** アムールトラはとても希少な種類なので、『種の保存法』に基づき、環境省と協議をしなければなりません。(国から結婚の許しを受けなくてはなりません。) すべてをクリアし、めでたく結婚!!

## 「種の保存」現状と課題

2008年度末現在、日本国内ではオス29頭、メス28頭が飼育されていました。当時の最高齢は16歳でした。 また、2008年に生まれたアムールトラの子供は、秋田の2頭と釧路の3頭のうち1頭は生後間もなく死んでしまいました。

### 生物学的な問題

国内では24園館がアムールトラを飼育していますが、オスだけ、またはメスだけで飼育しているところも少なくありません。また、ある特定のペアの子供だけがが増えてしまうと、日本国内のアムールトラは遺伝的に偏ってしまいます。

### 物理的な問題

- アムールトラはネコ科動物の中でも最大であり、北方に生息しているため、暑い環境が苦手です。
- 大きくて危険な動物であるため、簡単に移動できません。
- 施設が老朽化しているところもあります。

## 「種の保存」の今後

- 猛獣舎のリニューアルが日本各地で行われ、行動展示に重点を置いた、すばらしい施設が増えてきています。
- 海外の動物園との交流により、新しい血筋の導入が期待できます。
- 昨年、アルルが広島に嫁入りし、国内での繁殖地がまたひとつ増えました。
- 今年は、ミルルが嫁入りする予定です。
- アシリとウィッキーは現在10歳で、次の繁殖に向け、担当者は日々観察を続け、準備をしています。

# 飼育員が 伝授! エサのあげ方 トラの巻

## 猛獣の間接飼育とは...

間接飼育とは、飼育員の安全を最優先にして、「動物と飼育者が同じ空間に入らずに」飼育する方法です(主に肉食動物)。間接飼育では、人間が動物と一緒にいることはありません。これに対して、直接飼育とは、動物と飼育者が同じ空間に入って飼育する方法です。(主に草食動物)。



外(展示場)ではエサをあげません。



閉園後、トラの部屋にエサを準備します。



トラ用通路の扉を引き上げます。すると、エサにつられてトラが部屋に入ってきます。



虎が部屋に入ったら、扉を閉めて終了です。トラがエサを食べている間、飼育員が外(展示場)の掃除をします。



# トラの干支展 大特集

## 大森山 アムールトラ(♂)の献立表

●月・水・金・日曜日【馬肉3キロ+ニワトリ3羽】



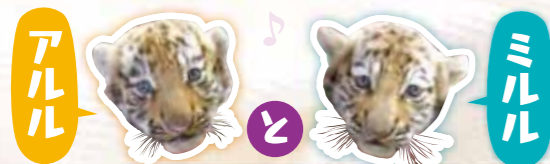
●火・土曜日【絶食】

野生のトラは、狩りの成功率がとても低く、毎日食事ができるわけではありません。動物園でもこの習慣をトラに忘れさせないために「絶食日」を設けています。



## アムールトラの繁殖記録

希少種であるアムールトラの繁殖に大森山動物園で初めて成功した記録です。(抜粋)



## 展示場デビューまでの裏日記

誕生日 2008年3月6日 父:ウィッキー(1999年12月生) 母:アシリ(1999年3月生)

- 6月9日 アシリ搬入(多摩動物公園より借り受け)。
- 8月7日 アシリ、ウィッキーと柵越しに終日お見合い開始。
- 9月22日 アシリの発情の始まりを確認。9/27まで続く。
- 10月24日 ウィッキーとアシリ、朝より同居を行う。同居後すぐ、アシリがウィッキーに交尾を促す行動あり。以後、夕方まで20~30分間隔で交尾行動あり。
- 11月16日 アシリの発情の始まりを確認。数回の交尾を確認。10月の発情・交尾では妊娠しなかった。11/23まで続く。
- 11月23日 朝、交尾行動を1回確認。追尾行動を含め、以後は繁殖行動をまったく確認できず。発情終了および最終交尾日として確認。
- 12月8日 出産に備え、室内に産箱を設置する。アシリ、産箱の臭いを嗅ぎ、警戒し落ち着かない様子。餌は完食。※12月発情なし、妊娠の可能性大。
- 1月31日 産箱に敷き藁を入れる。特に気にする様子もなく箱の中に入り、横になり休んでいた。※1月も発情なし、妊娠はほぼ確実。
- 3月4日 出産予定日初日。アシリを終日室内で様子観察。特に行動変化等は見られない。餌食いも良好。
- 3月5日 出産予定日2日目。アシリ、終日室内。呼吸も落ち着き、特に変化なし。夕方の餌もすぐに完食。
- 3月6日 出産予定日3日目。アシリを気分転換に朝9時から1時間程度外へ出す。ゆつくりと歩きながら周囲を観察していた。室内収容後は産箱に入った。箱外

- で横になったりしていた。夕方給餌時、餌を見せるとすぐに寄ってきて食すが、3~4切れ食した後、積極的な食いつきが見られなくなった。以後は産箱内で寝返りしたり、敷き藁を口でくわえたりなど、落ち着き無い行動が見られた。(軽い陣痛か?) 便も少し軟らかく、量も少ない。
  - ★18:30、待望の第一子出産、続いて20:40第二子出産。11/23の最終交尾日から105日目。
- 3月7日 朝、モニターで授乳を確認。アシリが体勢を変えると、仔2頭も自力で動きながら乳頭の位置へ移動する。前日の餌は昼頃になって全て食していた。夕方の給餌時は自ら寄ってきて餌をくわえ、産箱入り口付近で食していた。餌を食している以外は箱内で授乳。
- 3月11日 授乳確認。アシリは産箱から出た様子なし。飲水確認、補給する。前日のニワトリ(プロイラー)は3羽給餌したうち1.5羽程度残餌。残餌回収および室内清掃のため、アシリを一時的に別室へ移動させる。スムーズに移動でき、部屋に戻した後も落ち着いて産箱に入る。
- 3月14日 7:40、11:45の2回、仔の鳴き声確認。親子は終日室内でモニター観察。
- 3月15日 8:55、14:30、16:30、17:00にそれぞれ仔の鳴き声を確認。元気な様子(2頭かは不明)。14:00に横中電灯を使い柵越しに産箱内を覗く。授乳中の2頭を確認。腹部のふくらみなどを見る限り、十分な授乳がされていると思われる。体長は25~30cmか?
- 3月18日 アシリを別室へ移動させ、仔の生存を肉眼で確認する。2頭が寄り添うように箱の角に回っていた。
- 3月21日 午前10時よりアシリを隔離し、仔2頭の体重測定・性別判定・健康診断を行う。2頭ともにメスと判明。目もほとんど開き、爪もはっきりした形が見られた。ヘソや骨格、尻の状態も良好。獣医師の診断中、何度が仔が鳴くが、アシリは給餌されている餌を落ち着いて食し、気にしている様子なし。終了後、アシリを仔のもとへ戻した後も特に警戒することなく、仔の体を舐めたり、授乳したりの行動が確認された。その後は産箱から出ることもなく授乳していた。
- 3月22日 アシリ、食欲安定し、プロイラー3羽完食。食後キーパーに威嚇あり。モニターで授乳数回確認。仔、活発に動きあり。
- 3月23日 アシリ、午前中ほとんど産箱から出ることもなく過ぐる。仔は四肢で起立し、数十cm歩行も確認するが、床が滑ってうまくいきず…。餌の食べ方を仔に見せるためか、アシリが産箱内に餌を持って行き、仔の前で食していた。その間、仔2頭はアシリの様子をじっと見ていた。
- 3月28日 朝、アシリが産箱から出てきてキーパーを激しく威嚇(ウィッキーに会えないストレスか?)。その後は箱に戻り落ち着いていた。10時よりアシリを隔離し、仔2頭の2回目の体重測定・健康チェックを実施。順調な生育。終了後、アシリを部屋に戻しても、興奮することなく落ち着きあり。仔の体を舐め、箱内で授乳を行う。数回授乳確認。
- 3月30日 朝にウィッキーを外へ出す作業時、アシリが興奮してキーパーを威嚇する。10時頃よりアシリを隔離し、室内水洗清掃および階段に大量の敷き藁を敷く(仔が落ちた場合の事故防止)。
- 4月1日 仔の体重測定を実施(ミルル:4.65kg、アルル:4.6kg)。夕方には箱内を活発に歩き回り、時々出入り口より顔を出したりしていた。数回授乳確認。仔は目も完全に開き、歩行もだいぶしっかりした様子。四肢をふんばり、上手に歩行ができていた。
- 4月2日 仔はほぼ完全な開眼と四肢をふんばった歩行があり、産箱内を活発に歩き回っていた。アシリのお腹の下に潜ったりしていた。
- 4月3日 仔を目視で2頭確認、異常なし。仔2頭、朝に産箱出入り口より顔を覗かせていた。まだ箱から出た形跡はなし。授乳確認。アシリ、食欲良好。
- 4月6日 仔はアシリの腹周辺に登ったりしながら、活発に動きまわっていた。
- 4月7日 仔の体重測定・健康診断を実施。体重推移や健康状態に問題なし(獣医師確認)。仔、産箱から出た様子なし。アシリ、部屋に戻してすぐに仔を舐めていた。落ちつきあり。夕方プロイラーを箱内に運び入れ、仔の前で食していた。
- 4月11日 仔の体重測定を実施(ミルル:5.7kg、アルル:5.65kg)。仔2頭、産箱より顔を出したりしていた。足取りもしっかりし、活発に箱内を動きまわる。
- 4月12日 仔、箱より自力で出て、数十cm歩行。
- 4月15日 仔の体重測定を実施(ミルル:6.2kg、アルル:5.93kg)。測定のため抱きかかえると、アルルがキーパーを威嚇。仔、足取りもしっかりしている。
- 4月16日 産室用に別のカメラ(産箱出入り口映像用)を設置する。夕方には全頭箱外で休んでいた。仔も自由に産箱から出入りすることを確認。アシリ、箱内でプロイラーを食す。夕方5時半、箱外で授乳。
- 4月18日 仔の体重測定を実施(ミルル:6.35kg、アルル:6.2kg)。測定のため抱きかかると威嚇あり。歯を確認(異常なし)。室内と通路を自由に歩きまわることができ、朝より夕方まで解放状態にする。早々1頭だけ出てきて隅々まで動きまわり、臭いを嗅いでいた。自力で階段をスムーズに昇降し箱へ戻る。

- 4月23日 仔の体重測定を実施(ミルル:6.75kg、アルル:6.65kg)。
- 4月24日 仔、プロイラー食していた(手羽先部分)。
- 4月26日 仔2頭、夕方にプロイラーを食していた?奥歯で噛み切ろうと、しつかり肉をくわえ左右に顔を動かしていた。
- 4月27日 仔の体重測定を実施。2頭ともに7.05kg。捕獲しようとする2頭を威嚇し、力もかなり強い。爪での攻撃(?)もあり。部屋以外のスペースへ頻りに出入りし、じゃれたりしながら活発に行動していた。授乳時以外はほとんど箱の外にいる。
- 5月1日 仔の体重測定を実施(ミルル:7.4kg、アルル:7.6kg)。2頭ともに歯・爪がしっかりしており、四肢の力も強く、抱きかかるとかなりの力で暴れる。
- 5月5日 仔の体重測定を実施(ミルル:7.75kg、アルル:7.95kg)。歯・爪鋭く、抱きかかると力強く暴れる。日中、通路と空きの部屋を歩きまわっている。夕方はプロイラーを1頭につき1羽を給餌。必死に食らいつき食していた。
- 5月9日 仔の体重測定を実施。2頭ともに8.35kg。夕方も一生懸命肉を食していた。
- 5月19日 仔2頭、1羽のプロイラーを2頭で取り合っていた。
- 5月20日 仔にトローパンの埋め込みと予防注射。体重測定を実施(ミルル:9.8kg、アルル:10.2kg)。※力が強くなり、危険防止のため最後の体重測定。
- 5月22日 親子を屋外展示場へ出す練習を行う(8:55~11:30)。展示場と室内を開放状態にする。アシリは警戒しながらも外へ出る。仔2頭は体半分くらいを外に出す。すぐに室内へ引込んでしまう。数回繰り返すも、風の音や草木の動きに驚き、結局完全に外へは出ることがなかった。11:30頃にはアシリが疲れた様子のため練習を中止し、室内に収容する。仔2頭、夕方にプロイラーをすぐに食す。
- 5月26日 9時~11時まで親子の展示練習。仔2頭、少し警戒していたが数分後には完全に外へ出る。出入り口から半径1メートルの周囲を活発に動きまわり、草を齧ったり、竹に寄りかかったり、階段を登ったりと、色々な行動あり。
- 5月28日 親子、朝より屋外展示練習。扉を開けて10分程は警戒して出ようとしなかったが、その後はプールへ入ったり、お立ち台のスロープに登るなど活発に行動していた。特にアルルが元気よく、1頭だけでも遊んでいた。アシリも時々室内から出てきて仔の様子を見ていた。午後3時まで練習する。
- 5月30日 本日より、正式に一般公開として親子の展示を開始した。展示方法は前日同様室内とのオープンで行った。仔は展示場全体を駆け回り、活発に行動していた。

※アルルは、2009年6月18日、広島の安佐動物公園にお嫁入りしました。その時の様子は、6ページでご紹介しています。